公益社団法人土木學會
海洋開発委員会

第50回海洋開発シンポジウム(2025)
第50回記念特別講演会

海洋開発の未来を拓く
～50年の歩みと次の50年への挑戦～

2025年6月30日(月) 13:30 ～ 17:30

海洋開発委員会は、海洋の開発保全についての調査・研究を実施し、その成果を社会に普及させることを目的に1969年に設置されました。翌1970年より、最新の知見の発表と討議を行う場として海洋開発シンポジウムを毎年開催してきました。本年は50回を記念して、特別記念講演会を開催いたします。ふるってご参加下さい。

開会挨拶　名古屋大学 水谷 法美 先生

－第1部－

特別講演「海の哺乳類からのメッセージ」

国立科学博物館 田島 木綿子 先生

－第2部－

「海洋開発のこれまでとこれから」

1. 歴代委員長講演（※所属は委員長在任時のもの）
   - 京都大学　髙山 知司 先生
   - 港湾空港技術研究所　下迫 健一郎 様
   - 早稲田大学　柴山 知也 先生
2. 話題提供
   「伊勢湾台風を絡めた港湾施策」
   国土交通省中部地方整備局副局長 西尾 保之 様
   「海洋開発の最前線の話題と未来」
   JAMSTEC経営企画部未来戦略課課長 牧 武志 様
3. パネルディスカッション
   進行：名古屋大学 富田 孝史 先生

閉会挨拶　名古屋大学 富田 孝史 先生

写真：第49回海洋開発シンポジウムの様子

特別講演　講師紹介

田島　木綿子　先生
（国立科学博物館動物研究部　脊椎動物研究グループ）

【研究分野】
海棲哺乳類学・比較解剖学・獣医病理学

【研究内容】
　イルカ、クジラは進化の過程で完全に後肢が退化しましたが、後肢が退化したことで周囲構造はどのように変化しているのか、またはどこまで哺乳類の一般型を維持しているのかに興味をもち比較形態学的に研究を進めています。
　また、ストランディング個体はなぜ海岸に打ち上がってしまうのか？という謎を病気という観点から解き明かしています。
　ヒト社会が発展したことによる環境や野生動物への影響が懸念されていますが、海棲哺乳類にもその影響は出てきているようです。

【講演概要】
　四方を海に囲まれた島国日本ですが、その海には我々と同じ哺乳類が多く生息しています。クジラ・イルカの鯨類、アザラシ・アシカの鰭脚類、マナティ・ジュゴンの海牛類、そしてラッコとホッキョクグマです。昔は陸上を四つ足で闊歩していた種類もいましたが、今では海に依存しないと生きられなくなりました。そんな彼らが自ら海岸に打ち上がってしまう「ストランディング」という現象が日本でも年間３００件以上報告されています。死んでしまった個体を調査して研究や教育普及に活用すると、様々なことが見えてきます。最新知見を交えながら彼らのことを多方面から紹介します。

海洋開発シンポジウム　これまでのあゆみ

第1回～第9回（1970～1978）　東京都(土木学会土木図書館講堂)
第10回～第12回(1985～1987)　東京都(土木学会土木図書館講堂)
第13回(1988) 神戸市
第14回～第20回(1989～1995)　東京都(土木学会土木図書館講堂)

第21回(1996) 東京都	第31回(2006) 大津市	第41回(2016) 浜松市
第22回(1997) 網走市	第32回(2007) 長崎市	第42回(2017) 仙台市
第23回(1998) 東京都	第33回(2008) 倉敷市	第43回(2018) 金沢市
第24回(1999) 宮崎市	第34回(2009) 横浜市	第44回(2019) 北九州市
第25回(2000) 東京都	第35回(2010) 鹿児島市	第45回(2020) 新型コロナウィルス蔓延で中止
第26回(2001) 鳥取市	第36回(2011) 松山市	第46回(2021) オンライン開催
第27回(2002) 下関市	第37回(2012) 函館市	第47回(2022) オンライン開催
第28回(2003) 金沢市	第38回(2013) 米子市	第48回(2023) 網走市
第29回(2004) 宜野湾市	第39回(2014) 新潟市	第49回(2024) 徳島市
第30回(2005) 小樽市	第40回(2015) 神戸市	第50回(2025) 名古屋市